神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Nonverbal Commuicationと英語教育

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 1977-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中野, 道雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1984

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

Nonverbal Communicationと英語教育

中　野　道　雄

1

Nonverbal communication は，人間のコミュニケーションのうち，ことばによるコミュニケーションに対して，ことばによらないコミュニケーションをいう。

ことばによるコミュニケーション（verbal communication ）をになう記号体系(semiotic system)がlanguage であるが，一方， nonverbal communicationをになう記号体系として，明らかにされつつあるものに，次の三つがある。

1．paralanguage
2．proxemics
3．kinesics

本稿では，この三つの記号体系の知識と習得の英語教育における意義について論じる。

Paralanguage は，字義どおりには，言語の周辺的なものという意味であるので，それに忠実に解釈して，ここにいうnonverbal communication のすべてを属せしめることもできる。しかし，ふつうは，発話に付随する，音声的であるが，言語のシンタクスから独立したものと考えられているものをさ

している。

「ごめんなさい。」
「言いかたが悪い，もう一度！」

などというときの「言いかた」がそれである。換言すれば「ごめんなさい」という発音の基本的な音形に加えられた variation である。具体的には，音の高低，強弱，速度，リズムなどである。しかし，これらはむしろ，言語の体系の中に含めて考えたほうが適切であるし，また伝統的な音声学，音韻論においてもとりあげられている。

人間の発する音でも，拍手などは，発声器官による音声ではないという意味で，音声ではない。一方，発声器官によって調音されて，コミュニケーションの機能をはたし，しかも言語のシンタクスから独立しているものがある。たとえば，口笛，舌打ちなどである。筆者は，これらをparalanguage として扱うのが適切であると思う。

Mrs Eynsford Hill. I'm sure I hope it won't turn cold. There's so much iufluenza about. It runs right through our whole family regularly every spring.
Liza 〔*darkly*〕 My aunt died of influenza; so they said.
Mrs Eynsford Hill 〔clicks her *tongue sympathetically*〕 !!!
Bernard Shaw, *Pygmalion*

アインズフォド夫人：本当に，寒くならないといいのですけれど。流感がとってもはやっておりますのよ。宅では，春にはいつもみながやられますの。

ライザ：〔顔をくもらせて〕おばが流感でなくなりました。そう聞いています。

アインズフォド夫人：〔同情を表わして舌を鳴らす。〕　チチチ。

But the back door was blocked by cook, Sadie, Godber's man and Hans.

Something had happened.

'Tuk-tuk-tuk,' clucked cook like an agitated hen. Sadie had her hand clapped to her cheek as though she had toothache. Hans's face was screwed up in the effort to understand. Only Godber's man seemed to be enjoying himself; it was his story.

What's the matter? What's happened?

'There's been a horrible accident,' said cook. 'A man killed.'

Katherine Mansfield, 'The Garden-Party'

でも，裏のドアのところには，料理番と女中のセイデイと召使いのハンスと，ゴドバーの店の男が立ち話をしていた。

なにかがあったのだ。

「タタタ…」料理番は，興奮しためんどりのような声を立てた。セイデイは歯が痛いとでもいうように手で頬を押さえた。ハンスは，よく分からないというようすで，まゆをひそめていた。ゴドバーの店の男だけが得意気であった。彼が持ってきた話なのだ。

「どうしたの？何があったの？」

「恐ろしい事故がありましてね，お嬢様。人が死にましたのですよ」と料理番が答えた。

以上の二例に見られる舌打ち音は，人の不幸を聞いたときなどに鳴らされる。

'I say,' began Edmund presently, 'oughtn't we to be bearing a bit more to the left, that is, if we are aiming for the lamp-post?' He had forgotten for the moment that he must pretend never to have been in the wood before. The moment the words were out of his mouth he realized that he had given himself

away. Everyone stopped;everyone stared at him. Peter whistled.

C. S. Lewis, *The Lion, the Witch and the Wardrobe*

「ねえ」と，ほどなく，エドマンドが話しはじめた。「もう少し左寄りに進んだほうがいいのじゃない？つまり，あの街燈へ向かって行くとすればね」彼は，そのとき，自分が以前にこの森に来たことがないふりをしなければならないのだということを忘れてしまっていた。今，このことばを言ったとたん，うそをついていたのがばれたと分かった。皆は足を止めた。ピーターが口笛を吹いた。

この口笛は，「おやおや」「あきれた」などという気持を表わす。

次にproxemicsを検討する。Proxemicsは，米国の文化人類学者Edward T. Hall が開発した研究領域である。ホール博士によれば，人間は，時間や空間のとりかたを記号としてコミュニケーションを行なっている。そしてそのコード（code）の文化的な異なりが異文化間の理解を阻害することがある。

米国人とラテン・アメリカ人とでは，約束した時間というものに与える意味づけが同じでない。米国人は，10分遅れたらいらいらしだし，30分遅れたらふんがいする。しかし，ラテン・アメリカ人にとっては，30分ぐらい遅れて怒るのは大人げない。したがって，米国人とラテン・アメリカ人が時間を定めて会う約束をしたときには，誤解にもとづく感情的摩擦が生じる可能性がある。(1)

また，米国人とラテン・アメリカ人とでは，対面して会話するときにとる間隔が異なる。ラテン・アメリカ人のほうが、より近づいて話す。このため，米国人がラテン・アメリカ人と話すときに，米国人的感覚で距離をとると，

(1) ホール「沈黙のことば」(南雲堂，1969)，PP.19-20.

ラテンアメリカ人はよそよそしいと感じるであろう。[2]

もちろん，日本人には日本人のproxemicsがあるわけである。

Kinesics は，動作・姿勢・表情などを記号とする人間のコミュニケーション体系の一つである。常識的にはジェスチュアのこととみなしてさしつかえない。Kinesicsも，文化・民族が違えば違うのであって，同じではない。

たとえば，両手の人差指をひたいの両側に立てて，角の形をするのはcuckoldを意味する。また，中指を人差指の上に重ねて，人の無事を祈る。このような英語国民のジェスチュアは，西洋文化に深く根ざすものであって，日本人のジェスチュアではない。

ウインクというのは，日本人もしないわけではないが，よく観察すると決して同じではない。日本語には「目くばせ」ということばもある。これは，視線をすばやく動かすことによって，何らかの合図をすることである。これに対して，目をパチリとさせるほうがウインクである。このほうに，このように外来語を用いているということは，それ自体が外来的なものであることを示唆しているのかもしれない。さらに，日本人は，英語国民がするウインクのすべてを習慣的にするわけではない。たとえば次の例を見てみよう。ある会社の社長が，たずねてきた，いまはおいぼれた昔の仲間と話しをしているところである。

> 'There was something I wanted to tell you,' said old Woodifield and his eyes grew dim remembering.
>
> 'Now what was it ? I had it in my mind when I started out this morning.' His hands hegan to tremble, and patches of red showed above his beard.
>
> Poor old chap, he's on his last pins, thought the boss. And feeling kindly, he winked at the old man, and said jokingly. 'I

(2) 同書 PP.235-7.

tell you what. I've got a little drop of something here that'll do you good before you go out into the cold again.'

Katherine Mansfield, 'The Fly'

「あんたに話したいことがあったのだが」とウッディフィールド老人は，目をぼんやりとさせて，何かを思いだそうとしていた。「何だったかな？今朝，家を出るときは覚えていたんだが」彼の手はふるえはじめ，あごひげの上のあたりに赤いはんてんが浮かんだ。

かわいそうに，この男も，先は長くないな，と社長は思った。そこで，やさしくしてやろうとウインクをして，冗談めかして言った。「それが何か言ってあげよう。これから寒いところへ出て行くんだから，一ぱいやってあたたまって行きなさいよ」

このようなウインクは，相手とのserious な，あるいはawkward な心理関係をほぐして，気楽な，余裕をもったものにしようとする働きをしていると見ることができる。このようなウインクは日本人的なものではない。

以上に見てきたように，paralanguage, proxemics, kinesicsは，それぞれが，一つのコミュニケーション体系であるとともに，言語（language ）とともに人間の複合的なコミュニケーション体系を形成している。そして，やはり言語と同じく，文化ごと，民族ごとに，違った形成をしているのである。Nonverbal communication と英語教育の関係は，この事実から，おのずから導きだされてくる。英語教育の目的は，英語国民とのコミュニケーション（この中には，彼らの書いたものを読むということも含まれている）を行なえる能力を，学習者に獲得せしめることにある。コミュニケーションが，言語だけでなく，nonverbal なものによっても行なわれていて，しかもそれが，学習者のものとは違うのであれば，それを学習して熟達するのでなければ，十全とは言えないわけである。

以下に，

1．英語国民との対面コミュニケーション

2．英語の読解

3．英語の表現

の三つの場合における，nonverbal communication 特にkinesics (gesture) の持つ意味合いについて論じることにする。

近年，日本人が英語国民と直接に話しを交わす機会が増加して，習慣や考えかたの相違が，言語によるコミュニケーションを阻害することが多いことが認識されるに至った。表情やジェスチュアもコミュニケーションの疎通に重要な役割を果たしている。たとえば，相手にI'm sorry と，完ぺきな発音で述べても，もし，顔に笑みを浮かべていたならば，英語国民に対しては，ことばとはうらはらな意味を伝えてしまうだろう。日本人のコミュニケーションでは，緊張を和げる働きをするのかもしれない，このような場合の笑みが，英語国民のコミュニケーションでは，sincerity の欠如を示すことになる。

アメリカ人が，日本人に近よって何か話しかけようとする。日本人が手を顔の前でひらひらさせて断わる。このジェスチュアは，日本人自身が意図しているより，はるかに強い拒絶の意味を伝えることになる可能性がある。

日本人の女性が，あまりおかしくないことを社交的に笑い，その笑った口を手でおおうしぐさも，誤解を招くことがあるとして，しばしば例にひかれる。誰が見ても非常におかしいときに，大笑いし，それを抑制しようとして，口に手を当てることは，自然であり，英語文化においても認められる動作である。しかし，押さえなければならないほどの笑いの発作を伴なっていないのに，手を当てるのは，その笑いをかくそうとしているのであり，笑いが不誠実であることを示唆している。次の例を見てみよう。女の子たちが，貧しい家の子供をからかって笑いものにしている場面である。

'Watch ! Watch me now !' said Lena, and sliding, gliding, dragging one foot, giggling behind her hand, Lena went over to the Kelveys.

Lil looked up from her dinner. She wrapped the rest quickly away. Our Else stopped chewing. What was coming now ?

'Is it true you're going to be a servant when you grow up, Lil Kelvey ?' shrilled Lena.

Dead silence. But instead of answering, Lil only gave her silly, shamefaced smile. She didn't seem to mind the question at all. What a sell for Lena ! The girls began to titter.

Katherine Mansfield, 'The Doll's House'

「見て！見て！私がやるから見ててよ！」とリーナは言った。そして，すべるように，とぶように，片足をひきずりながら，手を口に当ててクスクス笑いながら，ケルビー姉妹のところへ行った。

リルは，お弁当から目をあげた。お弁当の残りをあわてて包んだ。小さな妹のほうは，口をもぐもぐさせるのをやめた。何を言われるのかしら？

「リル，あなた，大きくなったら，召使いになるって本当？」リーナが甲高い声でたずねた。

気まずい沈黙。答えないで，リルは，おろおろした，はずかしげなえみを浮かべた。こんな質問くらい気にすることもないようすだった。リーナには，そんな位ではだめよ。女の子たちは，クスクスと笑いだした。

この用例のgiggle behind her hand, titter などは，この場面に典型的に見られるように，不誠実な笑い，そしり笑いを示唆する。英語文化では，この種の笑いと，このジエスチュアの連想が強いので，日本人の笑いに対する誤解が生まれることになる。

もちろん，英語国民の側の，日本人のnonverbal communicationに対する理解も期待されなければならない。しかし，その場合でも，日本人のnonver-

bal communication が手放しでよいというのではなく，国際的な尺度からチェックされなければならない。そのようなチェックは，現実のコミュニケーションの場で，試行錯誤的に行なわれて行くのであろうが，英語教育者は，それに対して，明確な展望と実際的知識を提供する義務がある。

英語で書かれた文章を正しく読みとく力を養うことが，英語教育におけるもっとも重要な課題のひとつであることは論をまたない。英語がかなり読めるようになった学習者，たとえば，現代の小説をすらすら読める程度のものが，いっそう読みを深めるために，ジェスチュアの研究をすることは効果がある。このことを，いくつかの例をあげて論じてみたい。

次の引用例で，「私」は，祖父母に育てられている少年で，かねてから猟銃を欲しがっていた。おばあさんが強硬に反対するので，半分あきらめていた。ところが，クリスマスの朝，思いがけなく，猟銃がプレゼントされた。Popsie というのはおじいさんである。

> Popsie's face was a smiling circle. 'I talked her into it.' he nodded his head toward grandmother, 'on condition that you use it properly, of course.'
>
> 'Oh, Gram,' I gave her a bear-hug around her short little neck. 'You know I'm pretty responsible.'
>
> 'Huh !' she said, grunting through my hug.
>
> Jean McCord 'My Teacher, the Hawk'

さて，この場面で，祖父は祖母に向かって，なぜnod するのだろうか。祖母に，「なあ，そうだろう？」と確認したのではない。（そのように解釈する人が多いのであるが。）祖母は，上例のおわりのほうの描写でもわかるように，心から，猟銃を買うことに同意したのではない。したがって，「私」や祖父からはそっぽを向いている。祖父は，祖母にでなく，「私」をコミュニ

ケーションの相手として，このジエスチュアをしたのである。ただ， nodding の方向が祖母であった。換言すると，このnodding は，一種のpointing gesture である。祖父は，今，祖母のことに言及しているので，祖母をさし示したのである。Aを指さしながら，Bに，「彼女(A)と，きのう映画に行ったんだよ」というのと同じである。

そのように解釈することは，この場面によく適合するが，それはまた，英語に，そのような表現パターンがあることを発見することによって支えられる。

> 'Where did you find it ?'
> '*He* gave it me,' said Elizabeth. She nodded her head towards Rodney.
>
> John Wain, 'I Love You, Ricky'

> 「それをどこで見つけたの？」「彼がくれたのよ」とエリザベスは言った。彼女は，ロドニイのほうへあごをしゃくった。

> 'And then this young lady' (he nodded at Susan) 'does her bit of archery——and it was pretty shooting.
>
> C. S. Lewis, *Prince Caspian*

> 「そして，それから，このお若い御婦人が（彼はスーザンのほうへあごをしゃくった）弓のお役目を果たされました——いや，なかなかのお腕前でしたよ。」

上の訳例に示したように，この動作を，こなれた日本語に訳そうとすれば「あごをしゃくる」とするのが一法であろう。さらに，次の用例は，この nodding が pointing gesture であることを，決定的に示している。

'I've had it done up lately,' he explained, as he had explained for the past——how many?——weeks. 'New carpet,' and he pointed to the bright red carpet with a pattern of large white rings. 'New furniture,' and he nodded towards the massive bookcase and the table with legs like twisted treacle. 'Electric heating!'

He waved almost exultantly towards the five transparent, pearly sausages glowing so softly in the tilted copper pan.

Katherine Mansfield, 'The Fly'

「最近，改造したんだよ」と彼は，このところずっと（何週間になるんだったかな？），そうしてきたように説明をはじめた。「カーペットを変えて」と明るい赤の地に大きい白い輪の模様のカーペットを指さした。「家具も変えた。」彼は，どっしりとした本棚と，糖密のようにくねった脚のついたテーブルのほうにあごをしゃくってみせた。「それに電熱だよ！」彼は，ほとんど陶酔したというように，傾いた銅の受皿の中に，白々と柔らかに輝いている五個の透明のソーセージ状のもののほうを手を振って示した。

次に，表情の表現についてみてみよう。（表情は，広義のジエスチュアに入るものである。）

One morning the busy doctor invited Sue into the hallway with a shaggy gray eyebrow.

O. Henry, 'The Last Leaf'

これは，肺炎にかかった女性を往診に来た医者が，同室の友人を廊下に呼びだして，病状を説明しようとするところである。これに対する，或る訳。

ある朝，もしゃもしゃで，白い毛のまじった眉毛の，その忙しい医者は，スウを廊下にくるように招いた。

この訳では，with a shaggy gray eyebrow というのが，その医者の風貌の描写のようにしか解されていない。

まず，eyebrowが単数で（片方だけshaggyでgray？），しかも不定冠詞が用いられていることに注意すべきである。point with a finger と言えば，「指を一本伸ばす」，make a fist と言えば，「げんこつを作る」という意味である。このように，不定冠詞は，その形状が臨時的なものであることを示唆している。

次に，英語では，眉を動かす表情の描写が豊かであることも知っておくべきである。そうすることによって，正しい解釈が得られる。上例では，医者は，片方の眉を，ひょいとつり上げて，それを合図として，廊下に出ることを指示したのである。類例をあげておこう。

At the Grand Hotel at Yokohama a cable awaited him.
'So sorry to have missed you at Manila. Love. Mabel.'
He scanned the shipping intelligence with a fevered brow.
Somerset Maugham, 'Mabel'

横浜のグランド・ホテルで，彼は電報を受けとった。「マニラデアエズ，ザンネン，アナタノメイベル。」彼はまゆをつりあげて，熱に浮かされたように，入船予定表を目で追った。

この例では，自分が逃げまわっている婚約者が来るというので，男が，どの船で来るのかを調べているのであるが，片方のまゆがつりあがっているという描写で，その必死さを表わしている。

英語のイディオムの中には，ジェスチュアに由来するものが多くある。それらを，ジェスチュアとの関連において正しく理解しておくことは，英語を正確に読むために必要である。

> But for all the grim forebodings about the future of English soccer, some enthusiasts are still keeping a stiff upper lip.
>
> *Newsweek*, Nov. 26, '73

> しかしイングランドのサッカーの将来についてそんなに暗い予兆が見られるのにもかかわらず，まだやせがまんをはっているファンがいる。

Keep a stiff upper lip は，上くちびるを緊張させる表情で，不平や泣き言をいわないで，じっと耐える態度を表わす。このイディオムの基本的意味だけでなく，この表情がイギリス人の国民性をよく表わす表情であるということを知っておくと，このイディオムをいっそうよく理解することができる。

> And now at last, brave though she was, her heart quailed. Supposing the others weren't there! Supposing the ghouls were! But she stuck out her chin (and a little bit of her tongue too) and went straight towards them.
>
> C. S. Lewis, *The Horse and his Boy*

> そして，いまや，とうとう，彼女は，勇気のある子ではあったが，胸がどきどきしはじめた。他のものたちがそこにいなかったらどうしよう。鬼がいたらどうしよう。だが彼女は，あごをぐいとつきだし，（それに舌もちょっぴりつきだし，）まっすぐ歩いていった。

この用例で，stick out her chinは，「敢然と立ち向かう」姿勢を表わしている。この場合は実際にとった姿勢でもあるが，そのような姿勢を描写するのに慣用的な表現であるということを知っておくことが読みを深める。「舌も」というのは，作者が，慣用表現に変化をつけて，少女の愛らしさを描いたのである。

このように，英語の言語表現の中に投影されたジェスチュアの正確なイメージを思い浮かべることによって，正しい読みがえられるのである。

外国語として英語を学習するものにとっての英語表現力とジェスチュア表現の関係も多岐にわたるが，ここでは，その一つとして，動作の分析的表現をとりあげてみる。ここで「分析的」というのは，たとえば次のような場合をいう。

○拍手する……非分析的表現
○両掌をひろげ，左右に一定間隔をおいてたもち，次に掌面を強く打ち合わせる。これを数度くりかえす。……分析的表現

このような分析的表現は，基本的なものであるのにもかかわらず，外国語ではもちろん，母国語でも難しいものであることが知られている。

これは，言語表現が，実際には，より非分析的，換言すれば，より総合的，抽象的なレベルで行なわれていることのほうが多く，分析的表現が十分に発達しているとは限らないからである。

本稿では，英語の，動作の分析的表現の重要な構文の二，三について簡単に検討するにとどめる。

He was standing with his arms stretched. (彼は両うでをひろげ

て立っていた。)

これは，ある動作をしているとき，体のある部分がどのような状態にあるかをいうために必要な構文である。この構文は，次の2例のように省略することもできる。

He was standing with arms stretched.

He was standing, arms stretched.

次の構文においてonは，ある動作，姿勢をするときの支点を示している。

He lay on his back.(彼は仰向きにねころんだ。)

He went on hands and knees.(彼は，四つんばいで進んだ。)

We've fallen on our feet.(うまくいった。)

最後の例は，イデイオムであるが，字義どおりには，とびおりて着地したときに，ひざやおしりでなく両足（足首から先）を支点としていたという意味である。

He hit me in the face.(彼は私の顔をぶった。)

He tapped me on the shoulder.(彼は私の肩をポンとたたいた。)

上の2例では，人の体になんらかの動作をおよぼしたとき，その接点を前

置詞で示している。

本稿において説いてきた，英語教育におけるnonverbal communicationの意義は，最近かなり認識されるようになってきたが，まだ，そのうらづけとしての研究は十分とはいえない。研究のいっそうの発展が期待されるわけである。

参 考 文 献

A　和文（翻訳を含む）

(1) アバクロンビー，デビッド『ジェスチュア』（宮田斉・田辺洋二訳「英語教育の原理と問題」松柏社 1969）

(2) カーカップ，ジェイムズ・中野道雄「日本人と英米人—身ぶり・行動パターンの比較—」第5版（大修館 1975）

(3) ギロー，ピエール（佐藤信夫訳）「記号学—意味作用とコミュニケイション—」（白水社 1972）

(4) 小林祐子「身ぶり言語の日英比較」（ＥＬＥＣ出版部 1975）

(5) 多田道太郎「しぐさの日本文化」（筑摩書房 1972）

(6) 中野道雄『Body LanguageとSign Language』（「現代英語教育」1971・7 研究社）

(7) ——『ジェスチュア：日英の比較』（「英語教育」1973・1 大修館）

(8) ——『俗信・迷信と身ぶり』（「英語教育」1973・5 大修館）

(9) ——『ジェスチュアの調べかた』（「英語展望」№47 Autumn 1974 ELEC）

(10) ——『笑いのジェスチュア』（「英語教育」1976・9 大修館）

(11) ——『日本語・英語文化間の理解と誤解—Proxemic Corumunication をめぐって—』（「英語展望」Nos. 55・56 Autumn 1976 ＥＬＥＣ）

(12) ——「ジェスチュアの英語」（創元社 1977予定）

(13) 西原忠毅「英語とジェスチュア」（松柏社 1961）

(14) バーンランド，Ｄ．Ｃ．（西山千訳）「日本人の表現構造—ことば・しぐさ・カルチュア—」（サイマル出版会 1973）

(15) ホール，エドワード・T（国弘正雄他訳）「沈黙のことば」（南雲堂　1969）
(16) ヤコブソン，ローマン（中野道雄訳）　『'yes', 'no' を表わす動作記号』（鈴木博編「主要文献・総索引—英語教育講座第 6 巻」研究社　1975）

B　英　文

(1) Benthall, Jonathan & Ted Polhemus, eds. *The Body as a Medium of Expression* E. P. Dutton, 1975.
(2) Birdwhistell, Ray L. *Kinesics and Context* University of Pennsylvania Press, 1970.
(3) Bosmajian, Haig A, ed. *The Rhetoric of Nonverbal Communication* Scott, Foresman, 1971.
(4) Condon, John C. & Mitsuko Saito, eds. *Intercultural Encounters with Japan* The Simul Press, 1974.
(5) Efron, David *Gesture, Race and Culture* Mouton, 1972.
(6) Fast, Julius *Body Language* Evans, 1970.
(7) Hall, Edward T. *The Silent Language* Doubleday, 1959.
(8) ——*The Hidden Dimension* Doubleday, 1966.
(9) Kirkup, James, 'Kinesics: Japanese Boby Language' *Japanese Themes and Scenes* Tsurumi Shoten, 1971.
(10) Nakano, Michio 'English and Japanese Gestures in Contrast' *Kobe Gaidai Ronso* Vol 25 №. 6　1974.
(11) Saitz, Robert L. 'Gesture in the Language Classroom' *English Language Teaching* Vol. XXI. №. 1　1966.
(12) ——& Edward J. Cervenka *Handbook of Gestures: Columbia and the United States* Mouton, 1972.
(13) Seward, Jack *Japanese in Action* Weatherhill, 1968.